United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
UNESCO Associated Schools

平成２７年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成２７年４月～平成２８年３月

１．学校概要

学校名　新潟県十日町市立松之山中学校

種　別　□保育園・幼稚園　□小学校　□小中一貫教育
■中学校　□中高一貫教育　□高等学校
□教員養成　□技術/職業教育
□特別支援学校　□その他（　　）

所在地　〒９４２－１４３１
新潟県十日町市松之山湯山１５

E-mail　matsunoyama-jhs@edu.city.tokamachi.niigata.jp

Website

児童生徒数　男子　２２　名　女子　２１　名　合計　４３　名
児童・生徒の年齢１２歳～１５歳

２．実施活動（複数選択可）

□　地球規模の問題に対する国連システムの理解
□　国際理解
□　世界遺産
□　平和・人権
■　環境
□　気候変動
□　生物多様性
□　エネルギー
□　防災
□　食育
■　伝統文化
□　そのほか（　　）

３．活動内容

（１）１年間の主な活動内容について記載願います。

地域の自然や人々の生活等を通じて日常生活と環境問題との密接な関係について考え、環境保全や環境創造、持続可能な社会に向けた取組について、探究的な学習を通して、主体的に課題を見出し、多面的、総合的に追求する方法を身に付けることをねらいとしている。また、多様な課題を他者と協力しながら課題を解決し、自分とのつながりやかかわりについて関心を高める学習を推進している。

ア　山菜採り　～自然の恵みを感じる～

「山菜取り」は４５年以上続く当校の伝統行事である。地元のおばあちゃんから、山菜の種類や取り方について事前に教えてもらい、当日は地域の方や保護者の協力を得ながら、約２４０㌔の山菜を採取した。下処理も行い、その日のうちに温泉街などで販売した。厳しい冬が終わり春の訪れと恵みの喜びを、この活動を通して実感することで、松之山の良さを知ることができた。

イ　美人林清掃　～自然を守り　人を大切にする～

松之山地域のブナ林をきれいにする活動を行った。毎年多くの観光客がこの美人林を訪れる。地面に落ちたブナの小枝が観光客を歩きにくくさせてしまう。松之山を訪れた人たちに、素晴らしい景色を満喫してもらうためのこの活動は、松之山小学校でも実施されている。地元の自然を保護していこうとする意識と観光客を歓迎する姿勢を育んでいる。

ウ　子ども里山学会　～ふるさとを知り　発信する～

地元の教育研修施設「森の学校キョロロ」が主催する第１３回子ども里山学会において、１年生が総合的な学習の時間での成果を発表した。３グループに分かれて行ってきた調査は、「棚田」「野鳥」「温泉」をテーマとしたもので、当日は来場者にその研究成果を披露した。松之山をより深く知るきっかけとなり、ふるさとを愛する気持ちが膨らんできている。

（２）活動時間について（下記から選択して下さい。）

■　通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
□　時間外活動の時間を使用
□　ユネスコクラブの活動として実施
■　その他（　学校行事として実施　　）

温泉街で山菜販売

美人林掃除

豊かな山恵みを生徒会費に
松之山中で伝統「山菜採り」

松之山中学校（久保田智恵美校長、生徒数43人）では先月25日、同中で46年以上続く伝統行事「山菜採り」を全校生徒で実施した。地元のおじいちゃんおばあちゃん、保護者の協力も得ながら下処理作業も行い、最後は販売活動まで行うことで、松之山の豊かな自然の恵みの幸を実感していた。

生徒会費用の足しにしようと同中では恒例となっている山菜採り。全校生徒が分かれて早朝から校区内6カ所で山菜採りに励み、山竹の子、木の芽、ウド、ワラビ、アズキナ、トリアシなど10種類以上、計約240㌔も採取。毎年、後日販売のぜんまいを含めて10万円を軽く超える売上げ、生徒会費の大きな収入源となっている。

下処理した山菜はその日のうちに生徒自身が最寄街や街中など6カ所で販売。昨年までは生徒会委員会で販売していたが、今年から2、3年生全38人が協力して校区で販売することでみごと完売。また、ぜんまいは天日干しや揉み作業を2日間にわたり生徒が手慣れた様子でそれぞれ、いつ売ってくれるのかと固定客の人気を集めている。

久保田校長は「生徒も山菜も松之山の宝。山菜採りは松之山だからできることで地域の皆さんも力になって頂いている素晴らしい取組み。厳しい冬が終わり春の訪れと恵みの喜びを、この活動を通じて実感することで松之山の良さを知ることは大切なこと。販売も貴重な体験です。平成29年春には松之山小隣接地に新校舎が完成する予定なので、その時は小学生の高学年完着も一緒に参加してくれるようになれば素敵ですね」と話していた。

収穫した山竹の子の出荷準備を行う生徒

山菜 学校活動費に

十日町

地域の山の恵みを生徒会費の足しにしようと、松之山中学校で46年以上続く伝統の山菜採りが25日、行われた。収穫した山菜は松之山温泉街や日帰り温泉施設、市役所支所などで販売した＝写真＝。

2、3年生約30人が早朝から校区内の各所で山菜を探し、ワラビやアズキナ、トリアシなど10種類以上、約240㌔を採った。

販売した施設では、生徒の元気な呼び声に引き寄せられ、観光客や地域の住民が新鮮な山菜を買い求めた。宿泊客用にまとめ買いする温泉旅館関係者もいた。

3年生の小野塚太郎君（14）は「売り上げが活動費になる。良い伝統なのでこれからも続くといい」と話した。

十日町新聞（上）・新潟日報（下）